

製品名: mGluR5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13862**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	130kDa

抗原情報

遺伝子名	GRM5
別名	GRM5; GPRC1E; MGLUR5; Metabotropic glutamate receptor 5; mGluR5
遺伝子 ID	2915.0
SwissProt ID	P41594
免疫原	抗血清はヒト GRM5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 21-70

背景

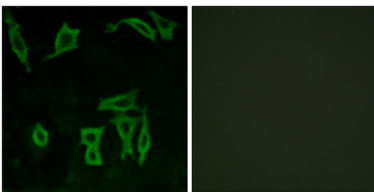
グルタミン酸代謝型受容体 5 (GRM5) ホモサピエンス この遺伝子は、G タンパク質共役受容体 3 タンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は代謝型グルタミン酸受容体であり、そのシグナル伝達はホスファチジルイノシ

トール-カルシウムセカンドメッセンジャーシステムを活性化します。このタンパク質は、神経ネットワーク活動とシナプス可塑性の調節に関与している可能性があります。グルタミン酸作動性神経伝達は、正常な脳機能のほとんどの側面に関与しており、多くの神経病理学的状態において障害を受ける可能性があります。この遺伝子の偽遺伝子は 11 番染色体上に定義されています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2014 年 5 月]、機能: グルタミン酸受容体。この受容体の活性は、ホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャー系を活性化し、カルシウム活性化塩素イオン電流を生成する G タンパク質によって媒介される。類似性: G タンパク質共役受容体 3 ファミリーに属する。サブユニット: PPXF モチーフは、HOMER1、HOMER2、および HOMER3 に結合する。SIAH1、RYR1、RYR2、ITPR1、SHANK1、SHANK3、および GRASP と相互作用する。、

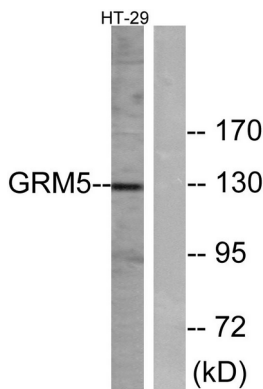
研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;ギャップ結合;長期増強;長期うつ病;ハンチントン病;

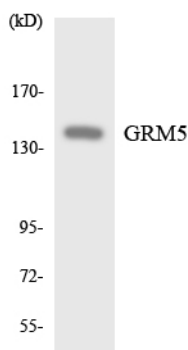
画像データ



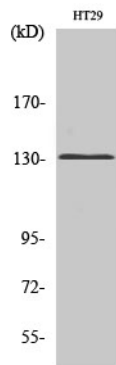
GRM5 抗体を用いた LOVO 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



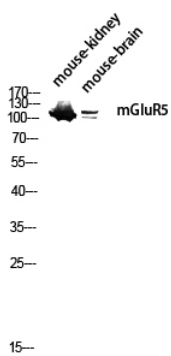
GRM5 抗体を用いた HT-29 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



GRM5 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 1000 に希釈した mGluR5 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



mGluR5 抗体を用いたマウス腎臓およびマウス脳の溶解物のウェスタンブロット分析。
抗体は 1:1000 に希釈した。